学校だより

令和８年 10 月吉日
上越市立有田小学校
校　長　　杉田　卓裕

「勉強する＝将来の幸せ」

みなさんは、上の「〇〇」をどのように思いますか？

すぐに頷ける感じではないですね。なぜなら、**「勉強する」**が何を指しているのかが具体ではない、また、**「将来の幸せ」**も何をもって幸せとするのかが明確ではないですよね。けれども、何となく「勉強する」ことが「将来の幸せ」につながるのではないかと思いませんか。

子どもに「**勉強してほしい**」「**勉強しなさい！**」と思ったり、言ったりするのは、**「子どもに将来幸せになってほしい」**と言う思いがあるからでしょう。おそらくそうですよね。では、子どもから**「なぜ、勉強しなければいけないの？」**と聞かれたら**「それはね、将来幸せになるためだよ」**と伝えて子どもは納得するでしょうか。子どもにそう聞かれたら、みなさんはどう答えますか？

私は、確実に**「将来幸せになるためだよ!!」**ときっぱり伝えます。このことの因果関係が子どもには分からなくてもです。世の中の多くの親御さんは子どもの将来の幸せを願わない人はいません。今、子どもにしているすべての言動は、確実に、絶対的に子どもの将来を考えているわけです。そして、我が子が幸せになることを世界で一番望んでいるのです。みなさん、子どもにしっかりと伝えましょう。**「勉強するのは、将来幸せになるためだよ!!」**と。でも、やっぱりちょっと根拠がなさすぎますよね。果たして勉強することが将来の幸せにつながるのでしょうか。ここで少し本から伝えます。**「科学的に考える子育て」の著書　和久田学**さんは、幸せと勉強は、まず定義すべきだと言っています。幸せについては『“幸せではないこと”を定義すれば、それ以外は「幸せ」になる！』と言っています。もう少し言うと、『幸せではないこと＝何らかの問題があること』と、つまりは何らかの問題とは社会的な問題（犯罪、不就労）、健康的な問題と伝えています。この何らかの問題以外は幸せということになります。続いて「勉強」についてです。勉強といっても、その捉えはとても幅広です。そこで「勉強でどのような力を付けるのか」と言い換えます。すると、世界規模で教育のことを研究している OECD（経済協力開発機構）で示している内容を確認しましょう。そこには、**【認知スキル】**と**【非認知スキル】**という二つの身に付けさせたいスキルが言及されています。そして、**認知スキル**とは読んだり書いたり計算したり問題に答えたりする**教科の学力**を言います。**非認知スキル**は**コミュニケーションスキル、感情コントロールスキル、協調性や創造力**などです。こう分けてみると、「勉強する＝将来の幸せ」は、幸せになると考えた時に認知スキルよりも非認知スキルが大切だと言えるとのことです。それを踏まえて OECD は自己効力感、社会性、自己コントロールスキルがキーであり、さらには自分を管理するスキルや時間を上手に使うスキルなども大切だと言っています。

まとめると、「勉強する＝将来の幸せ」にするためには「勉強する」を教科の学習ができる、テストで満点が多く取れるではなくて非認知スキルを高めるになりそうです。実は、文部科学省もこれまでの学習指導要領で「生きる力」というスローガンを掲げて学びを人生や社会に生かそうとする方向へ変化させています。2030 年の学習指導要領ではそのことをさらに強調しているように私は思います。次号で、もう少し子どもへの声がけや指導はどうあるべきなのかをお伝えします。